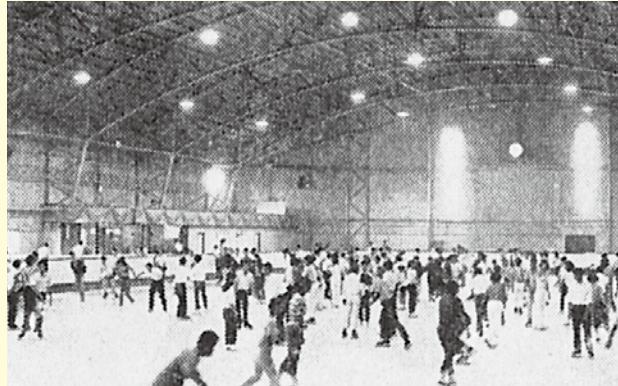


(「広報うつのみや」(昭和25年4月1日発刊)の中から、昭和を感じさせる懐かしい記事をご紹介します。)



昭和の記憶

～あんトキの記事から～



「市営御本丸スケート場」

(広報うつのみや昭和44年11月15日号)

市営御本丸スケート場がいよいよ11月22日に開場することになりました。

皆さんの体育と健全なレクリエーションの場として大いにご利用ください。

▽場所 旭町御本丸公園西 宇都宮市御本丸スケート場

▽開場期日 11月22日から、毎週金曜日は休日

▽時間 毎日午前10時～午後9時

「ママさんのスケート教室」

(広報うつのみや昭和45年3月1日号)

市営御本丸スケート場で130人のママさんが参加、4日間で滑れるようにならうと、七ころびハ起きこわごわながらも熱心に講習を受けました。

(一口メモ) 「市営御本丸スケート場」は、民営スケート場を市が買い取り、昭和44年11月に開場しましたが、老朽化のため、昭和62年3月に閉場しました。平成6年11月に現在の「市スケートセンター」が、城南3丁目に建設されました。



暮らしと交通のいい関係

L R T

今回は、LRT整備の概算事業費と財政負担について紹介します。

質問 LRT整備には、どのくらいの事業費が掛かるの?

また、市の財政運営に影響を与えることはない?

答え A 市域の優先整備区間の概算事業費は約406億円(消費税は含まず)となります。また、事業費の約2分の1について国からの支援を受けられる見込みであり、残りの事業費も市の財政規模から十分に対応することが可能です。

■概算事業費 LRTの事業化に向けた調査・検討を進める中で、通勤通学者のピーク時需要の増加に伴い、車両規模や編成数の増強が必要となりました。また、安全性・速達性、自動車交通との円滑化も考慮して、LRTのルートとなる主要交差点の改良や一部区間の高架化など、整備内容の見直しを行いました。

その結果、これまで約260億円と算出していたJR宇都宮駅東側の12キロメートル区間(宇都宮市域)の概算事業費を、今年8月に約406億円と試算しました。また、芳賀町域の区間の事業費については、芳賀町が負担することになります。

項目	主な見直し・変更内容	増減額	概算事業費
これまでの計画(H13・14時の検討など)			約260億円
施工単価の見直しなどへの対応	最新の実績単価の反映、工種ごとの事業費の見直しなど	+約27億円	約308億円
現在の技術基準への対応	鬼怒川渡河橋の整備(H24改定 鉄道構造物など設計標準対応)	+約21億円	
ピーク時需要増への対応	ピーク時の需要の増に伴う車両規模・構成数の増など	+約42億円	約350億円
安全性・速達性、交通円滑化への対応	一部区間での軌道の高架化、交差点改良、車線拡幅など	+約56億円	約406億円

*快速運行を実施した場合、追越線の整備などにより、概算事業費は約412億円となります。

LRTの事業費構成イメージ (単位:円)

優先整備区間400億

国200億 地方200億

単年度あたりの支出額イメージ

年 最大13億円



*分かりやすくするため、事業費を400億円と設定しています。

■財政負担

①国の制度の活用

LRT整備に要する事業費については、社会資本整備総合交付金などの制度により、事業費の約2分の1について国から支援を受けられる見込みです。

②市の財政規模

残り約2分の1の事業費全額を市が負担すると仮定し、また、その9割は市債(年度間の財政負担の平準化などを目的とする借入)を活用すると、単年度あたりの一般財源の支出額は最大13億円となり、毎年度約1,900億円規模の一般会計予算額を計上し、このうち約1,100億円の一般財源を有する市の財政規模から十分に対応していくことが可能です。

③芳賀町との事業費分担や県からの財政支援

芳賀町と共に車両や車両基地などの整備費については、町に応分の負担をお願いする他、LRTは、広域的な公共交通の利便性向上や地域発展に大きく寄与することから、県に財政支援を要望しています。

■LRT整備推進室 (632)2304

○明るい選挙啓発作品の入選者が決定

△市内小・中学校・高等学校から283作品(ポスター56、書道227)の応募があり、審査の結果69人が入選し、次の人が特選に選ばれました。(敬称略) △ポスターの部 細内崇裕(姿川中央小)、稻見知華(宇都宮大学教育学部附属中)、村上桜(宇都宮南高) △書道の部 出水穂香(東小)、川崎湧生(雀宮南小)、畠上眞毅(豊郷中)。選挙管理委員会事務局 (632)2793